



自然保護について

米田 登美子*

○ 自然保護に関する情報発信や寄せられた情報の管理などは、どのようになされているのか。

○ 環境保全市民会議と協働して、イラストを添えた登別自然マップホームページを作成し今年度中に公開予定。環境教育の教材としてCDも作る。貴重種を紹介する展示パネルも作り、市民ギャラリー等で展示する。寄せられた情報はまとめた台帳を作ったので、情報の更新をその都度図っていききたい。



日本一の市役所づくりは

職員の意識改革!!
山口 賢治*

今回は福祉行政など4件について聞いた。更に「日本一の市役所づくり」を掲げている小笠原市長の意向を受け、各部署内にて、どのような取り組みをしているのかも聞いた。保健福祉部長は部署内の意見交換を積極的に行い提案する。その中で市民の信頼を得ていると実感する事が、職員のモチベーションを上げる事に繋がると答弁した。

再質問において、非常に横柄な態度で市民に対応する施設管理委託職員もいるので、大いに反省をし、関係者一丸となり日本一を目指すよう求めた。



高齢者の社会参加

平田 江美子*

○ 65歳以上の市民は、民間のバス会社が発行している「おでかけパス」を利用して、通院・買い物や健康増進など、社会参加に役立っている。しかし、パスカードを購入する時、市役所から証明書を発行してもらい、バス会社へ添付しなくてはならない。高齢者にとっては、その都度市役所へ行くのが大変である。何か良い方策はないか。

○ 高齢者の利便性を考えてバス会社と相談したい。



市制施行40周年を期に

市民協働の推進を
赤根 広介*

市制施行40周年は、単に記念事業を実施するだけではなく、各種事務事業や計画など市政全般を市民参画の下で総点検し、市民協働の推進をはかるべきと提案。緊急雇用創出事業は市が行う直轄事業に限らず、民間企業やNPOなどへの事業委託を行い、起業化支援を含め、継続雇用へつながる仕組みづくりが必要と指摘。

また、新卒者の就労支援については、本年度、市が単独で実施しているワークショップやリングを来年度以降も継続して実施していくとの答弁だった。



平成20年度決算を審査

議長及び監査委員を除く19名の議員により平成20年度の決算認定について審査しました。平成21年10月20日～22日までの3日間を予定していましたが、前記したとおり道民税取扱委託金の請求漏れが明らかになったため、一般会計の認定に際してより審査が必要となり、11月5日を追加。



結果、各会計を賛成多数で認定しました。

多くの質疑が行われましたが、一議員一質問を基本に主なものを掲載します。

* 赤根 広介 *

東京登別げんき会は、より多くの市民が参加できるように、登別においても地元の部会を設置し、情報の共有と発信が可能となる体制を構築するべきと質問。
今後、交流会などで地元意見を聞きながら検討したいとの答弁。

* 石山 正志 *

高額療養費未請求問題の再発防止に関し、各セクションの対応がバラバラであり、「手書き事務」の改善有無も不明である。決算審査にあたり、はっきり答弁すべきと指摘した。総務部長は年内を目途にまとめた、と答弁するに留まった。

* 上村 幸雄 *

○ 中小企業に対する融資制度について金融機関との情報交換が必要ではないか。
○ 年末に向けて商工会議所や金融機関との情報交換は有益な話や有意義な情報につながる、今後は市として各機関に向いて話し合いの場にしていく。

* 大村 喬 俊 *

○ 受益者負担の適正化に向け、徹底して取り組むべきではないか。

○ しっかり議論できる場を作りたい。行政側からの一方的な考えや対応策を提示するのではなく、作る過程から議員や市民からの意見公募も取り入れたい。